

市立札幌啓北商業高等学校の取組

1 研究のねらい

ユネスコスクールである本校は、商業高校としての特徴を活かしつつ、異文化理解と地域・国際貢献をテーマに定め、持続可能な開発のための教育(ESD)活動を展開している。今年度は、「ユネスコスクール SDGs アシスト助成金」も活用し、以下の二分野に特に力を入れて研究に取り組んだ。国際コースに所属する3学年「英語探究」および2学年「異文化理解」選択生徒を主な対象に活動を実践し、学年をまたいだ協働学習に挑戦した。

1. 異文化理解に関わる取組や授業等の実践交流等

海外の方や有識者との交流、施設訪問や実習等の体験型学習を通じ、異文化理解を深め、世界での日本の役割について考える姿勢を育成する。またフェアトレード学習や、身近で実践できるボランティアに参加することで、知識と実践経験両方を育成することを目指す。

2. 生徒のコミュニケーション能力を養うための外国語教育に係る実践的研究

- ・海外の人々と交流し、英語でのコミュニケーション能力を養う。
- ・ボランティア活動を通じ、主体的に国際社会へ貢献する態度を養う。
- ・異文化理解やフェアトレードについての学びや気づきを、英語で発表する。

2 取組内容

課題： 異なる文化や価値観をもつ方々と交流し、自分たちの学びや気づきを共有してよりよい社会へ貢献するために、どのような活動を行えるだろうか。

(1) 世界を知る

① アフリカ文化講話

- ・エチオピアからの北大留学生を迎え、コーヒーセレモニー（日本の茶道にあたる）を通じて、おもてなし文化を学んだ。
- ・ジンバブエの伝統楽器(ムビラ)演奏家を迎えて、ジンバブエの文化やムビラについて学んだ。

② 在札幌アメリカ総領事館首席領事講話

外交官の仕事や領事館の役割、異文化理解の大切さ、首席領事自身が日本語学習を始めた高校時代の体験談を伺った。

③ 姉妹都市ポートランド、グラント高校生との交流

短期留学で来校した生徒たちと、学校生活を共にして交流した。

④ アメリカの高校生とインターネットを通じた交流

Kizuna Across Cultures(KAC)のGlobal Classmates 参加を通じ、パソコンやスマートフォンを使用して、日本語を学習するネブラスカ州エルクホーン高校の生徒と、自己紹介や将来の夢など身近な話題について、日英語で投稿し交流した。プレゼントと手書きの手紙交換も実施した。相互の文化理解を深め、同世代のアメリカ人と友情を育んだ。

⑤ オーストラリアと Skype 会議を通じた交流

シドニー在住のALTの母とSkypeでつなぎ、オーストラリアの学校や高校生活について順番に英語で質問し、交流した。



(2) 国際協力・フェアトレード

昨年度、北星学園大学教授・フェアトレード北海道代表萱野先生からアドバイスをいただき実施したフェアトレードに関する活動は、生徒・保護者・教職員からも大変好評であったため、今年度は事前・事後学習により力を入れて継続実施することとした。

① 学校祭でのフェアトレードのパネル展示及び商品販売ボランティア

事前活動：SDGs とフェアトレードについて学習した後、フェアトレード北海道副代表高見講師を招きインドの手作りフェアトレードビーズに触れ、生産者について学んだ。

活動概要：学校祭で、札幌市環境局からお借りしたフェアトレードパネルの展示、フェアトレード商品(開発途上国の手工芸品・食品)販売を実施した。

事後活動：代表生徒が北海道盲導犬協会を訪れ、学校祭フェアトレード商品販売収益金を全額寄付した。盲導犬訓練施設や老犬ホームを見学し、理解を深めた。

② ボランティア・インターンシップ

- ・6月、フェアトレードフェスタ 2019in さっぽろに、ボランティア活動に参加。
- ・8月、JICA 北海道主催高校生国際協力体験プログラム 2019 へ、1～2年生3名が参加。
- ・11月、フェアトレードショップ/カフェで、生徒2名がインターンシップに参加。

③ JICA 北海道訪問

10月、JICA 北海道を訪問。青年海外協力隊 OB からアフリカでの活動について話を聞き、地球ひろばの展示を見学し SDGs、国際的な課題、日本の国際貢献について理解を深めた。

④ JICA「世界が 100 人の村だったら」ワークショップ

元海外青年協力隊である阿部講師をお迎えし、「世界が 100 人の村だったら」ワークショップを実施し、体験型学習を通じて世界の問題について学んだ。

(3) 学びを仲間と共有し、自分たちの考えを発信する

国際理解教育活動での学びで気づいたこと、勉強になったこと、今後の進路で役立てたいことについて、行事の一つ選んで英作文を書き、一年間の活動と学習内容を振り返った。

3 成果と課題

(1) 成果

国際交流・貢献活動を通じ、生徒の視野や関心が広がり、コミュニケーション能力が向上した。生徒たちからは、「間違いを恐れずに英語で話したり、書いたりできるようになった」という声が多く聞かれた。また、盲導犬協会訪問後、生徒からの提案により、学校祭の収益金を利用して、盲導犬協会から職員と盲導犬を招き、1～2年生全員を対象に盲導犬や盲導犬ユーザーについて学ぶ講演会を実施した。

(2) 課題

取組を継続・発展させていくことが課題である。そのためにも、校外で国際理解教育活動や成果を知ってもらうことが大切である。新聞や、学校ホームページを通じた広報にも力を入れた。また、令和元年度札幌市立高等学校・特別支援学校「研究紀要 第38号」で実践内容を共有する予定である。

